
2025 年度（令和 7 年度）

事業計画書

令和 7 年 3 月 21 日

学校法人 玉手山学園

I. 事業計画策定にあたって

教学理念は「夢と志 *Dreams & Wills*」 2023.11 理事会制定

D&W ABC ACTION を全学園あげて

第4期(2023~2027)学園中長期計画 3年目(スタート)

建学の精神



教学理念



玉手山学園 “たまがく” の教学活動 「骨組み」

玉手山学園の目的 実践 → 学園中長期計画(5年) → 行動計画(1年)
全教職員“一人ひとり”が「骨組み」を自らも解釈(自分の役割)して仕事に表す

学園は必ず 元気に生き残ります

とどまる兆しの見えない少子化で、教育界は生き残りをかけた生存競争時代が続いていますが、これから“は”一層 厳しさが加速します。本学園も募集に苦戦していますが、元気に生き残る力(教職員の熱意無借金 D&W ABC ACTION(次で説明))が十分にありますので、ご安心ご期待ください。大学 短期大学の入学定員は変更しますが それに応じた予算編成(体質改善)のもと 創意工夫を凝らして教育効果・成果の維持向上をめざします。

「D&W ABC ACTION」が魅力ある(選ばれる)学校になる

(健全に生き残る)ための全学園あげての実践(エネルギー)

D&W とは Dreams & Wills 「夢と志」のこと ACTION とは行動・実践

では ABC とは?

A 基礎(教学姿勢)の共有 実践

学生 生徒 園児 教職員がこのように生き成長して欲しい姿

B 「夢と志」の“仕掛け”で夢中になることが見つかる(元気 やる気が出る)

「夢と志」(D&W)の“仕掛け”作成・大集合⇒実用化

C 探しに行って 見つけて 育てる 早くから

「夢と志」とくれば学園の各校園とすぐに連想される(結びつく)ように 学園の特長 D&W の A B(学園の魅力(選ばれる理由))を学園内でしっかりと実践・体感し学園外にも広く強く発信する(魅せる)

玉手山学園はどんな学校か ABについてもっと分かりやすく説明します

A 基礎(教学姿勢)の共有 実践

↓ 教学姿勢を分かりやすいようにイメージツリー(木の成長)で表しました



学校だから知識 技能の修得は当然ですが
学園の教職員は土の中“根っこ(心の成長)”の教育も大切にします
←これが学園の教学姿勢 こんな学校です

教職員はこんな風に学生 生徒 園児に接します

土の中の○内に書かれていることを実感してもらえるように教育活動を行います
このように生き成長して欲しいと願っています

Ex. 笑顔であいさつ...この当たり前を心からそう思えるように

できる方法を考えてチャレンジ 失敗も無駄ではないと思えるように

↓ もっと短く表すと(強調したいのは)



関西福祉科学大学 関西女子短期大学
関西福祉科学大学高等学校 関西女子短期大学附属幼稚園 に来たら
夢中になることが見つかる

元気 やる気が出て 毎日が楽しい学校生活を過ごせる

✓本当? どうやって夢中になることが見つかる?

玉手山学園にはたくさんの 夢中になることが見つかる

ワクワクする“仕掛け”が本当にある 夢中と出会える!

↓ どうやって夢中になることと出会う(見つかる)?

B 「夢と志」の“仕掛け”で夢中になることが見つかる 夢と志(D&W)の“仕掛け”大集合



ワクワクする“仕掛け”がたくさんある 誰が何をどこで
教職員は 自分の“持ち味”を活かして“仕掛け”を作ります
“仕掛け”一覧がある ホームページのサイトに(R7.4~)

「夢と志」夢中になれることがあれば

楽しく毎日を過ごすことができます

あの“仕掛け”の〇〇氏がいるから 頑張れる

学生 生徒 園児 保護者 卒業生だって“仕掛け”を作れます

「感恩」「夢と志」の学校 ありがとうございます 夢と志を育てる学園

この当たり前を 玉手山学園ファミリーでめざし続けます

We raise up dreams & wills.



学校法人 玉手山学園
理事長・学園長 江端 源治

■ 建学の精神 感恩



人は さまざまな恩恵のもとで 生かされている
この真理に目覚め 感動 感謝から生まれる 豊かな心と情熱をもって
人の幸せを願い 行動するとき 私たちは成長し 豊かな未来社会をつくる

～「ありがとう」に出会い 気づき 感動 感謝の行動から
新しい「ありがとう」が生まれる～

■ 教学理念 夢と志 (Dreams & Wills)



「夢と志」は 心の中に生まれ育つ
「夢と志」を形にし 行動する
その色形 大きさ 方向は 一人ひとりそれぞれ
豊かな楽しい人生を歩む
私たちは「夢と志」を育てる We raise up dreams & wills.

■ 教学姿勢 夢と志を形にし 行動する (“仕掛け(プログラム)”を創り試す)

ありがとうを大切に 笑顔で あいさつし 優しく接する

建学の精神「感恩」にもとづき 人の幸せを願い行動

自分の考えを持つ できる方法を考え やってみる

常に改革(できる)の意識とスピード感をもって 創意工夫 試行を重ねる(失敗も宝)

For the students と 誠実経営

学生・生徒・園児のための誠実経営 持てる教育資源で最大限の教育成果

教育人として 誇り 責任 誠実

教育人として自己の能力・人格の向上に努め 教学を誠実に実践

■ ビジョン

1 
思 感 夢と志
の具現化

- ・ 教学姿勢の実践
- ・ 夢と志の多様性尊重
(大きさ 色形 方向はそれぞれ)

2 
教育力の向上

- ・ 学修成果
(できるようになる)
- ・ 修学成就
(笑顔での卒業)

3 
教育体制の充実

- ・ 組織安定
(学園在籍者数4,000人)
- ・ 4校園体制堅持
- ・ 健全収支
- ・ 施設 設備等の充実 愛用

4 
地域共生

- ・ 社会に愛され
成長する学園

5 
学園総合力の向上
(学園ファミリー意識)

- ・ 各校園の相互協力 尊重
(教職員 学生 生徒 園児)

教学姿勢 夢と志を形にし 行動する （“仕掛け(プログラム)”を創り試す）

令和6年11月22日 理事会承認

玉手山学園の目的 実践 イラスト版

玉手山学園は
“夢中になることが見つけられ 元気やる気が出る”
そんな環境をめざしています

色 形 大きさ 方向は多様

夢と志の結実

ずっと(一生) 続く



肥沃な土壌のもと
しっかりとした“根っこ(心)”が育ち
ずっと(一生)結実が続く 折れても再生する
知識・技能の修得は当然のこと
学園は“根っこ(心)”の教学姿勢を大切にします

教学姿勢

という栄養素

「夢と志」が育つ基礎と
“仕掛け”

教育人として
誇り
責任 誠実

誠実経営

ありがとう
を大切に

笑顔で
あいさつ

優しく
接する

できる方法を
考え
やってみる
失敗も宝

自分の考えを
持つ

For the
students

建学の精神

思 感

という土壌

II. 法人の概要

1. 設置する学校

学校名	学部・学科・専攻等	開設年度	
関西福祉科学大学	社会福祉学研究所	臨床福祉学専攻（博士前期課程）	平成 13 年
		臨床福祉学専攻（博士後期課程）	平成 15 年
		心理臨床学専攻（修士課程）	平成 15 年
	社会福祉学部	福祉創造学科 ^{※1}	平成 9 年
	心理科学部	心理科学科	平成 28 年
	健康福祉学部	健康科学科	平成 15 年
		福祉栄養学科	平成 15 年
	保健医療学部	リハビリテーション学科	平成 23 年
		理学療法学専攻	
		作業療法学専攻	
		言語聴覚学専攻	平成 27 年
教育学部	教育学科	平成 28 年	
	子ども教育専攻 ^{※2}		
	発達支援教育専攻 ^{※3}		
	子ども発達教育専攻 ^{※3}		
関西女子短期大学	保育学科	昭和 40 年	
	養護保健学科	昭和 42 年	
	歯科衛生学科	平成 17 年	
	医療秘書学科	平成 23 年	
	専攻科 口腔保健学専攻	令和 5 年	
関西福祉科学大学高等学校	全日制課程普通科	昭和 17 年	
認定こども園 関西女子短期大学附属幼稚園		昭和 40 年	

※1 関西福祉科学大学社会福祉学部社会福祉学科は令和 6 年 4 月より福祉創造学科に名称変更

※2 関西福祉科学大学教育学部教育学科子ども教育専攻は令和 4 年 4 月より廃止

※3 関西福祉科学大学教育学部教育学科発達支援教育専攻は令和 4 年 4 月より子ども発達教育専攻に名称変更

2. 学生・生徒・園児数

＜関西福祉科学大学＞

（単位：名）

研究科・学部・学科・専攻等	入学定員	編入学定員 (3年次)	学年 進行中の 収容定員	在籍者数(R7.4.1)					R6年度 卒業生数	
				1年生	2年生	3年生	4年生	計		
社会福祉学 研究所	臨床福祉学専攻(博士前期課程)	20	0	40	3	7			10	1
	臨床福祉学専攻(博士後期課程)	3	0	9	0	1	1		2	0
	心理臨床学専攻(修士課程)	10	0	20	6	2			8	5
大学院 計	33	0	69	9	10	1		20	6	
社会福祉学部	福祉創造学科 ^{※1}	140	3	600	74	96	127	125	422	120
	計	140	3	600	74	96	127	125	422	120
心理科学部	心理科学科	110	3	460	60	83	76	91	310	102
	計	110	3	460	60	83	76	91	310	102
健康福祉学部	健康科学科	80	3	340	51	48	62	58	219	72
	福祉栄養学科	80	3	330	46	46	58	46	196	54
	計	160	6	670	97	94	120	104	415	126
保健医療学部	リハビリテーション学科	170	0	680	140	125	121	122	508	112
	理学療法学専攻	80	0	320	84	73	59	73	289	65
	作業療法学専攻	50	0	200	25	27	37	26	115	32
	言語聴覚学専攻	40	0	160	31	25	25	23	104	15
	計	170	0	680	140	125	121	122	508	112
教育学部	教育学科	100	0	400	40	35	44	69	188	58
	子ども教育専攻 ^{※2}		0	50						15
	発達支援教育専攻 ^{※3}		0	50				8	8	43
	子ども発達教育専攻 ^{※3}	100	0	400	40	35	44	61	180	—
	計	100	0	400	40	35	44	69	188	58
大学 計	680	12	2,810	411	433	488	511	1,843	518	

※1 関西福祉科学大学社会福祉学部社会福祉学科は令和 6 年 4 月より福祉創造学科に名称変更

※2 教育学科子ども教育専攻は令和 4 年 4 月より廃止

※3 教育学科発達支援教育専攻は令和 4 年 4 月より子ども発達教育専攻に名称変更し、入学定員変更 50名→100名

< 関西女子短期大学 >

(単位：名)

学科・専攻科	入学定員	収容定員	在籍者数(R7.4.1)				R6年度卒業生数
			1年生	2年生	3年生	計	
保育学科	120	240	48	52		100	55
養護保健学科	40	80	15	22		37	16
歯科衛生学科	100	300	61	75	71	207	107
医療秘書学科	40	80	19	30		49	27
短大計	300	700	143	179	71	393	205
専攻科 口腔保健学専攻	5	5	5			5	3

< 関西福祉科学大学高等学校 >

(単位：名)

学校名	入学定員	収容定員	在籍者数(R7.4.1)				R6年度卒業生数
			1年生	2年生	3年生	計	
関西福祉科学大学高等学校	270	810	324	266	359	949	305

※入学定員は公募入学定員を表記(R4年度270名、R5年度270名、R6年度270名)
学則上の入学定員は470名

< 認定こども園 関西女子短期大学附属幼稚園 >

(単位：名)

学校名	入学定員	利用定員	在園児数(R7.4.1)							R6年度卒園児数	
			0歳児	1歳児	2歳児	満3歳児	3歳児	4歳児	5歳児		計
認定こども園 関西女子短期大学附属幼稚園	—	360	2	20	16	0	77	71	71	257	76

3. 専任教職員数

(単位：名)

学校名	R7年度現員 (R7.4.1)		計
	教員	職員	
関西福祉科学大学	124	52	176
関西女子短期大学	32	13	45
関西福祉科学大学高等学校	56	6	62
認定こども園 関西女子短期大学附属幼稚園	26	1	27
法人	0	1	1
法人本部	0	18	18
関西福祉科学大学附属整形外科リハビリ診療所	0	6	6
合計	238	97	335

〔基幹教員内訳〕(R7.4.1)

< 関西福祉科学大学 >

学部等の名称	基幹教員					助手	基幹教員以外 の教員 (助手を除く)	設置基準上 必要基幹教 員数	設置基準上 必要教授数	設置基準上 必要基幹教 員数 3/4
	教授	准教授	講師	助教	計					
社会福祉学部 福祉創造学科	12	5	2	0	19	0	5	14	7	11
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	12	5	2	0	19					
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(aに該当する者を除く)	0	0	0	0	0					
小計(a～b)	12	5	2	0	19					
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a又はbに該当する者を除く)	0	0	0	0	0					
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a、b又はcに該当する者を除く)	0	0	0	0	0					
計(a～d)	12	5	2	0	19					
心理科学部 心理科学科	9	9	4	1	0	14	0	10	5	8
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	9	4	1	0	14					
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(aに該当する者を除く)	0	0	0	0	0					
小計(a～b)	9	4	1	0	14					
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a又はbに該当する者を除く)	0	0	0	0	0					
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a、b又はcに該当する者を除く)	0	0	0	0	0					
計(a～d)	9	4	1	0	14					
健康福祉学部 健康科学科	11	11	3	2	0	16	0	14	7	11
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	11	3	2	0	16					
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(aに該当する者を除く)	0	0	0	0	0					
小計(a～b)	11	3	2	0	16					
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a又はbに該当する者を除く)	0	0	0	0	0					
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a、b又はcに該当する者を除く)	0	0	0	0	0					
計(a～d)	11	3	2	0	16					

健康福祉学部 福祉栄養学科	9	3	4	0	16	0	0	10	5	8
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	9	3	4	0	16					
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(aに該当する者を除く)	0	0	0	0	0					
小計(a～b)	9	3	4	0	16					
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a又はbに該当する者を除く)	0	0	0	0	0					
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a、b又はcに該当する者を除く)	0	0	0	0	0					
計(a～d)	9	3	4	0	16					
保健医療学部 リハビリテーション学科	10	10	9	0	29	0	5	17	9	13
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	10	10	9	0	29					
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(aに該当する者を除く)	0	0	0	0	0					
小計(a～b)	10	10	9	0	29					
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a又はbに該当する者を除く)	0	0	0	0	0					
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a、b又はcに該当する者を除く)	0	0	0	0	0					
計(a～d)	10	10	9	0	29					
教育学部 教育学科	9	6	5	0	20	0	0	10	5	8
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	8	6	4	0	18					
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(aに該当する者を除く)	1	0	1	0	2					
小計(a～b)	9	6	5	0	20					
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a又はbに該当する者を除く)	0	0	0	0	0					
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a、b又はcに該当する者を除く)	0	0	0	0	0					
計(a～d)	9	6	5	0	20					
計	60	31	23	0	114	0	10	—	—	—

< 関西女子短期大学 >

学部等の名称	基幹教員					助手	基幹教員以外の教員(助手を除く)	設置基準上必要基幹教員数	設置基準上必要教授数	設置基準上必要基幹教員数 3/4
	教授	准教授	講師	助教	計					
保育学科	5	2	3	0	10	0	0	10	3	8
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	4	1	3	0	8					
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(aに該当する者を除く)	0	1	0	0	1					
小計(a～b)	4	2	3	0	9					
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a又はbに該当する者を除く)	0	0	0	0	0					
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a、b又はcに該当する者を除く)	1	0	0	0	1					
計(a～d)	5	2	3	0	10					

養護保健学科						3	2	0	0	5	0	0	4	2	3
a.	基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの					3	1	0	0	4					
b.	基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(aに該当する者を除く)					0	1	0	0	1					
小計(a～b)						3	2	0	0	5					
c.	基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a又はbに該当する者を除く)					0	0	0	0	0					
d.	基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a、b又はcに該当する者を除く)					0	0	0	0	0					
計(a～d)						3	2	0	0	5					
歯科衛生学科						6	3	2	0	11	3	0	6	2	5
a.	基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの					6	3	2	0	11					
b.	基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(aに該当する者を除く)					0	0	0	0	0					
小計(a～b)						6	3	2	0	11					
c.	基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a又はbに該当する者を除く)					0	0	0	0	0					
d.	基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a、b又はcに該当する者を除く)					0	0	0	0	0					
計(a～d)						6	3	2	0	11					
医療秘書学科						2	1	1	0	4	0	0	4	2	3
a.	基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの					1	1	1	0	3					
b.	基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(aに該当する者を除く)					0	0	0	0	0					
小計(a～b)						1	1	1	0	3					
c.	基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a又はbに該当する者を除く)					0	0	0	0	0					
d.	基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a、b又はcに該当する者を除く)					1	0	0	0	1					
計(a～d)						2	1	1	0	4					
計						16	8	6	0	30	0	—	—	—	—

< 関西福祉科学大学高等学校 >

< 認定こども園 関西女子短期大学附属幼稚園 >

(単位：名)

学校名	専任教員数		計
	男	女	
関西福祉科学大学高等学校	41	15	56
認定こども園 関西女子短期大学附属幼稚園	3	23	26

Ⅲ. 事業計画の概要（重点施策）

関西福祉科学大学

1. 建学の精神「感恩」の周知（認知率 97%）と実践
2. 教学理念「夢と志」の周知（認知率 90%）と実践
3. 教学姿勢（イメージツリー）の共有と実践
4. 夢と志を育てる“仕掛け”の創作と実践
5. 就職支援の充実
6. 国家試験、各種資格試験等の合格支援
7. 退学、休学者減少の対策強化
8. 入学定員の充足

関西女子短期大学

1. 建学の精神「感恩」の周知（認知率 96%）と実践
2. 教学理念「夢と志」の周知（認知率 96%）と実践
3. 教学姿勢（イメージツリー）の共有と実践
4. 夢と志を育てる“仕掛け”の創作と実践
5. 就職支援の充実
6. 国家試験、各種資格試験等の合格支援
7. 休学者・退学者数減少の対策強化
8. 入学定員の充足

関西福祉科学大学高等学校

1. 「夢と志」を育み、生徒の「やる気と元気」を引き出す。次の5項目を実践
①授業を大切に ②時間を守る ③笑顔で挨拶
④「ありがとう」の心を大切に ⑤課外活動を活発に
2. 生徒一人ひとりを大切にしっかりと関わる
3. 主体的学習習慣の確立と進路希望実現
4. 教育のデジタル化へのさらなる推進
5. 本校の特長を伸ばし、全学協働した説明会・広報活動を強化推進する

認定こども園 関西女子短期大学附属幼稚園

1. 建学の精神「感恩」と教学理念「夢と志」の周知と実践
2. 「夢と志」を育てる“仕掛け”の創作と実践
3. 教員の資質・能力の向上
4. 働きやすい環境の醸成
5. 魅力的な広報活動の実施と園児の確保

法人本部

1. 経営改善計画 D&W ABC ACTION の実行
2. 働き“がい”改革の推進及び業務の生産性向上
3. 私立学校法改正に対応した運営

IV. 財務の概要

1. 令和7年度予算編成の基本方針

昨今の世界情勢及び我が国における少子高齢化の著しい進展等の要因により、私学及び本学園を取り巻く環境は加速度的に厳しさを増しています。

そのような中、本学園が永続的な発展を為し得るためには、教育活動の一層の充実・活性化を図ると共に、安定した健全財政基盤を確立していくことが必要となります。

令和7年度予算編成にあたり、その実現に向けた基本方針を次のとおり示します。

(1) 第4期中長期計画（2023-2027）及び中長期財務計画（2023-2027）に整合した予算編成を行う

- ①令和7年度における単年度目標となる「行動計画」実現のための支出及び収入（財源）を明確化
- ②目標とした重要財務指標（事業活動収支差額比率）の堅持

(2) 財政健全化及び収支バランスの適正化に向けた予算編成を行う

- ①事業活動収入の拡大
 - ・学生生徒園児等の定員確保、補助金及び競争的外部資金・寄付金等の積極的獲得
- ②事業活動支出の制御
 - ・教育・研究に必要とする支出については適切に予算確保
 - ・予算執行を必要とする新規事業計画策定にあたっては原則『スクラップ&ビルド』を基本
 - ・習慣化している業務の見直しによる事務効率化を、スピード感を持って進め経常的経費削減
 - ・経常的経費は前年度予算額を基準とせず、実績額勘案のうえ原則ゼロベースで策定費用対効果重視
 - ・年度途中の突発的支出事案（補正予算）については柔軟に対応するも、予算制度の原点を勘案して慎重に対応
 - ・奨学金については、奨学金を必要とする学生生徒に届くような制度に再構築

(3) 人件費の制御を適切に行う

- ①人事計画に基づき計画的な総人件費の制御
- ②財政状況・世間相場・同業他校状況を勘案した賃金改定

(4) 学園財政状況に対する理解を深める取組を行う

- ①『健全収支』、部門ごとの『収支バランス・標準運営費』等の理解を深めるための啓発

2. 予算の概要（令和7年3月7日時点）

(1) 資金収支計算書（内訳表ベース）

（単位：百万円）

	令和7年度予算	令和6年度予算
資金収入合計	4,830	5,311
資金支出合計	5,661	6,256
資金収支差額	△831	△945

令和7年度の予算は、前年度と比べて資金収入が減少、資金支出が増加し、収支の均衡を欠く予算編成となりました。

資金収入は、厳しい学生募集環境のため学生・生徒数が減少し、学納金が前年度予算に比べて減少すると見込まれること等により、前年度比481百万円減の4,830百万円となりました。

資金支出は、前年度に校舎の設備に係る大きな更新工事を実施して多額の支出を計上した反動から、前年度比595百万円減の5,661百万円となりました。

その結果、資金収支内訳書における資金収支差額は△831百万円となり、支出超過の予算編成となりました。

(2) 事業活動収支計算書

(単位：百万円)

	令和7年度予算	令和6年度予算	増減
教育活動収入計	4,818	5,299	△481
教育活動支出計	6,406	6,531	△125
教育活動収支差額	△1,588	△1,232	△356
教育活動外収入計	12	12	0
教育活動外支出計	0	0	0
教育活動外収支差額	12	12	0
経常収支差額	△1,576	△1,220	△356
特別収入計	0	0	0
特別支出計	0	0	0
特別収支差額	0	0	0
〔予備費〕	20	20	0
基本金組入前当年度収支差額	△1,596	△1,240	△356
基本金組入額合計	△131	△461	330
当年度収支差額	△1,727	△1,701	△26

(参考)

事業活動収入	4,830	5,311	△481
事業活動支出	6,426	6,551	△125

事業活動収入は、主として学納金が前年度予算に比べて減少すると見込まれるため、前年度比481百万円減の4,830百万円となりました。

事業活動支出は、今年度より賞与引当金を計上することから、人件費が前年度に比べて増加するもの、前年度に校舎の大規模な修繕を実施して多額の支出を計上した反動から、前年度比125百万円減の6,426百万円となりました。

その結果、基本金組入前当年度収支差額は前年度比356百万円減で△1,596百万円、基本金組入後の当年度収支差額は前年度比26百万円減で△1,727百万円となり、翌年度繰越収支差額が減少する予算編成となりました。

3. 主要財務指標

(%)

	R4年度	R5年度	R6年度 (予算)	R7年度 (予算)	全国平均 (R5年度)
人件費比率	59.0	60.9	65.6	76.4	50.9
人件費依存率	83.8	85.8	94.7	112.9	69.8
教育研究経費比率	37.6	39.1	45.3	43.9	36.6
管理経費比率	10.4	11.2	12.1	12.4	8.7
事業活動収支差額比率	△7.9	△11.1	△23.4	△33.0	4.2
基本金組入後収支比率	108.3	112.8	135.1	136.8	106.1
学生・生徒等納付金比率	70.3	71.0	69.2	67.7	72.9
補助金比率	24.4	24.6	26.4	26.2	14.4
減価償却額比率	10.4	10.7	10.1	10.5	11.4

(医歯科系法人を除く)

◇ 各比率は以下による

人件費比率	(人件費／経常収入)
人件費依存率	(人件費／納付金)
教育研究経費比率	(教育研究経費／経常収入)
管理経費比率	(管理経費／経常収入)
事業活動収支差額比率	(基本金組入前当年度収支差額／事業活動収入)
基本金組入後収支比率	(事業活動支出／(事業活動収入－基本金組入額))
学生・生徒等納付金比率	(納付金／経常収入)
補助金比率	(補助金／事業活動収入)
減価償却額比率	(減価償却額／経常支出)

(注) 「経常収入」＝教育活動収入計＋教育活動外収入計

「経常支出」＝教育活動支出計＋教育活動外支出計

以上